

令和元年8月19日
国土交通省 九州地方整備局
佐賀国道事務所

記者発表資料

令和元年度「道路ふれあい月間」推進標語国土交通大臣表彰の伝達を行います。
～全国応募の中から、『優秀賞』を受賞しました。～

「分かれ道 今日私は 迷わない」

優秀賞（中学生の部） 片江 葵さん（佐賀龍谷学園龍谷中学校）

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として道路の愛護活動や道路の正しい利用の啓発等の各種活動の推進に努めていますが、この一環として、改めて道路の役割・重要性について考えていただき、道路を常に広く、美しく、安全に利用していただくことを目的に、広く一般から本月間における取組を推進する標語を募集しています。

令和元年度は、全国から4,704作品、うち中学生の部624作品の応募があり、中学生の部で佐賀龍谷学園龍谷中学校の片江 葵（かたえ あおい）さんが優秀賞を受賞されました。

つきましては、優秀賞の国土交通大臣表彰の伝達を下記のとおり行います。

記

日 時 令和元年8月23日（金） 午前9時から

場 所 さが りゅうこくがくえん りゅうこくちゅうがっこう
佐賀龍谷学園龍谷中学校 4階講堂
佐賀県佐賀市水ヶ江3-1-25

※取材を希望される場合は、事前に下記の問い合わせ先までご連絡ください。

【問い合わせ先】

国土交通省 九州地方整備局 佐賀国道事務所



副所長（技術） ごとう きよまさ 後藤 清正 内線（205）

管理第一課長 わたなべ ゆうじ 渡辺 勇司 内線（431）

電話 0952-32-1151（代表）

※全国の入選作品は、別添のとおりです。

国土交通省ホームページ（http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_001173.html）より

令和元年6月11日
道路局 道路交通管理課

「この道は 世界につづく ゆめとびら」

～令和元年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品を決定しました～

令和元年度「道路ふれあい月間」推進標語の入選作品（最優秀賞3作品、優秀賞6作品の計9作品）を決定しました。

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路の愛護活動や道路の正しい利用の啓発等の各種活動を推進しており、この一環として、令和元年度「道路ふれあい月間」の推進標語を広く一般から募集した結果、全国から4,704作品の応募がありました。

これらの応募作品について、「令和元年度『道路ふれあい月間』推進標語審査懇談会」の三好礼子委員（エッセイスト、元国際ラリースト）、やすみりえ委員（川柳作家、文化庁文化審議会委員）、吉岡耀子委員（交通・環境ジャーナリスト）の3名に選考いただき、[小学生の部][中学生の部][一般の部]の部門毎に、最優秀賞1作品と優秀賞2作品を決定しました。

入選作品の応募者には、「道路ふれあい月間」期間中に国土交通省から、賞状及び楯を贈呈します。

入選作品の標語は、令和元年度「道路ふれあい月間」の推進のため、幅広く活用する予定です。

※委員名は五十音順

問い合わせ先

国土交通省道路局道路交通管理課 南雲、五十嵐

電話 03-5253-8111（内線37-422、37-423）

03-5253-8482（夜間直通）

FAX 03-5253-1617

令和元年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品

◆最優秀賞（3作品）◆

【小学生の部】

「この道は 世界につづく ゆめとびら」

あらき えいと
荒木 瑛登さん （神奈川県 茅ヶ崎市立小和田小学校）

【中学生の部】

「真っ白な 地図に描こう マイロード」

にしかわ ゆいな
西川 結菜さん （愛媛県 松山市立東中学校）

【一般の部】

「ふるさとの 未来を託す 道がある」

かじ まさゆき
梶 政幸さん （千葉県 長生郡白子町）

◎最優秀賞3作品のうち、委員に特に好評だった「この道は 世界につづく ゆめとびら」を今年度の代表標語とします。

◆優秀賞（6作品）◆

【小学生の部】

「大すきな みんなの声 ひびく道」

いで ここ
井手 心々さん （宮崎県 宮崎市立恒久小学校）

「歩くたび ちがう景色が みえる道」

ふくしま かつ
福島 勝さん （埼玉県 本庄市立旭小学校）

【中学生の部】

「青春を 刻んで歩む 今日の道」

おちあい なな
落合 虹さん （山形県 尾花沢市立福原中学校）

「分かれ道 今日の私は 迷わない」

かたえ あおい
片江 葵さん （佐賀県 龍谷中学校）

【一般の部】

「守りたい 大事な人と 歩く道」

しながわ かほ
品川 香穂さん （神奈川県 逗子市）

「新しい 時代の風を 運ぶ道」

なかしずか のりお
中 静 憲夫さん （新潟県 長岡市）

【各委員からの総合選評】

《三好委員》



令和が始まり、五輪を控えている今の日本。自然災害の脅威や自然保全。身近な問題から宇宙まで、年代に関係なく様々なテーマが取り上げられており、とても興味深く拝見しました。

結果は、爽やかでユニークで愛情いっぱい。詠んだら歌いながら闊歩したくなるような楽しい作品ばかりでした。道には、感謝・笑顔・縁・未来・風が似合います。まさに「ふれあい」ですね。

全国の皆様から多くの作品をご応募いただきました。各部門の最優秀賞作品には標語にふさわしい言葉選びやまとまりの良さ、そして心に響く内容を備えたものを今回も選ぶことができましたと実感しております。

また、優秀賞のそれぞれの標語も、内容に偏りが無いように選ばせていただきました。道路、ふれあい、をキーワードに「未来」「時代」「譲り合う」などの言葉を多く見受けました。まさに今の私たちを取り囲む日常の出来事に寄り添った言葉ですね。

昭和の時代から始まったこの「道路ふれあい月間推進標語」ですが、令和時代にはどのような標語が登場するのか楽しみです。これからも標語の持つ力に期待しています。

《やすみ委員》



《吉岡委員》



小学生、中学生、一般に分かれた部門ごとの優秀作品は年代ごとの生活と感性が滲み出していて、審査を通じて様々な”道路観”に触れることができました。

その中で選び出した代表標語は、12歳の少年の作品です。8月の道路ふれあい月間中には全国に掲示されるので、街中で、遠出のドライブで出会うかもしれません。グローバルでリズミカル、明るい気分になっていただければ、と願っています。

【各委員から最優秀賞作品へのコメント】

小学生の部 「この道は 世界につづく ゆめとびら」

- 三好委員 目新しい「ゆめとびら」という言葉に、一同心動かされました。「世界につづく」と合わさると、未来への可能性がグンと広がり、なんだかウキウキしてきます。小さな裏道から大きな街道までどんな道にも当てはまるだけでなく、応募者自身やすべての人々へのエールにも思えます。始まったばかりの令和という時代にぴったりの素敵な作品ですね。
- やすみ委員 未来への広がりを感じさせてくれる素敵な作品ですね。日ごろの慣れ親しんだ道を見つめながらこの言葉を紡いだのでしょうか、作者の感性が素直に響いてきます。特に“ゆめとびら”という言葉が良いポイントになっていて、この標語全体を光らせているように感じます。この作品を目にしたたり、耳にしたたりする時、誰もが明るく前向きな気持ちになれることなのでしょう。
- 吉岡委員 「ゆめとびら」という言葉はとても明るく、大人も誘い込まれるような気分になります。作者は小学6年生とのことで、「世界につづく」という言葉からも、これからの生活への期待の大きさが感じられます。小学生時代に積み重ねてきた日々の成長から生まれたような、広がりのある標語が生まれました。

中学生の部 「真っ白な 地図に描こう マイロード」

- 三好委員 白地図に旅の跡を記した日本一周ツーリングが原点の私にとって、キーワードがいっぱいの嬉しい作品です。白は希望。無限大に広がる可能性の地図を胸に、意気揚々と歩いていく様が浮かびます。寄り道したり迷ったり。出会いも別れもあるでしょう。凜とした様から意志の強さを感じました。ふと、「そうだ、私もまだ道半ば。描き続けねば」と気付かされた作品でした。
- やすみ委員 爽やかな雰囲気漂う標語です。道歩く人、自転車や自動車道を使う人、それぞれの立場に響く内容になっている印象を受けました。いつもの慣れた道も、時には初めて歩く道のように見渡してみるのも大切ですね。もちろん作者としては道路に人生を重ねた表現を通して、等身大の想いを伝えようとしてくれたのだと感じます。真っ白な地図には、これからどんな道が描かれてゆくのか、想像するだけでワクワクすることができます。
- 吉岡委員 言葉遣いが新鮮です。人生を真っ白な地図に置き換えて、ひるむことなく夢を描ききる。それは、中学生という特別な時期にだけできることなのかもしれません。この時期に書き留めた夢が大人になって叶えられたということはよく聞きます。マイロードという言葉には、ずっと伸びていく道路のイメージも重なり、未来を感じさせます。優秀賞の2作品も、「青春を刻んで歩む」「今日の私は迷わない」と、真剣さをダイレクトに表出して道を描いています。

一般の部 「ふるさとの 未来を託す 道がある」

- 三好委員 休むことなく人や物をつなぐ「道」。どんなに大切かを思い知らされる毎が続きますが、こちらはストレートでど真ん中。誰にも思いを馳せるふるさとがあります。それは場所だけでなく心のふるさと。そこで生きる子供から大人までに愛を送っているようで、とても温まりました。詠めば詠むほど味が出てくる、まるでスルメのような？（褒め言葉）作品です。
- やすみ委員 次世代への想いを標語に込めていらっしゃいます。“託す”という言葉に「大切なものをつきと手渡したい」という気持ちが表れていて、穏やかな中にも芯のあるメッセージを感じることが出来ました。また、“ふるさと”と平仮名で柔らかく表記していることによって、より一層優しさや温かみのある作品として完成されている印象を受けました。多くの人の共感を得る標語だと思います。
- 吉岡委員 「ふるさと」の言葉には人を引きつけてやまない響きがあるようです。とはいえ、過去の思い出だけでなく、「未来を託す」という願いには強さがあります。ふるさは今どうなっているのだろうか、変わらず静かにそこにあるのだろうか、あるいは人口減少や変貌などに悩んでいるのだろうか。土地への愛と結び付いて、道は現実味を帯びて輝いて見えてくるようです。